

アブラギリシンポジウムについて

アブラギリは若狭地方で江戸時代から栽培されてきた歴史があります。その実を搾って採る桐油は、かつて全国一の生産量を誇りましたが、昭和半ば頃の燃料革命と輸入材によって衰退し産業として完全に途絶えました。現在ではその名残から自然繁殖して野生化、元来の植生・生態系に悪影響を及ぼしている状況があるため、アブラギリを有効活用することで里山の保全に繋げることが出来ないかと考えています。

現在はニホンアブラギリを原料とする国産桐油は全く市場に出ていません。そこで唯一の生産地となるべく、商品化へ向けた研究を地元の若狭東高校と共に始めました。完成すれば唯一国産の桐油となるため、その価値を認めてもらえる可能性がある文化財分野での活用につなげたいと考えています。

私たちはアブラギリや桐油の生産量を増やしていくことを目的にはしておらず、少量の生産体制でも資源としての価値を高め、薄く広くでも分配して利害関係者を増やす、里山という環境に可能な限り多くの人が関わっていく仕組みづくりを目指しています。

今回のシンポジウムでは、その関係者を集め情報共有と意見交換をしたいと考えています。

日時：10月14日（土）13：00～15：00

場所：若狭湾青少年自然の家（〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜 TEL 0770-54-3100）

主催：若狭コロビプロジェクト

（NPO法人若狭くらしに水舎・一般社団法人 SwitchSwitch・福井県里山里海湖研究所）

後援：小浜市里山創造協議会

内容：

- ・「桐油のこれまでの研究」 若狭東高校教諭 見越先生
- ・「アブラギリから生まれる研磨炭」 名田庄総合木炭生産組合 木戸口武夫
- ・「桐油商品化へ向けた取り組み」 NPO法人若狭くらしに水舎 中嶋阿児
- ・「伝統工芸・文化財の修復に使われる材料について」 東京文化財研究所 保存科学研究センター
修復材料研究室 早川典子（室長）
- ・アブラギリの実から油を搾る実演（殻割り機と搾油機で実際に油を搾る）